

「学習と部活動の両立」に取り組む、大村高校の様子をお知らせします。



大高インフォメーション

ホップステップ JUMP!

〒856-0835 長崎県立大村高等学校 大村市久原1-591 TEL.0957(52)2660
<http://www.news.ed.jp/omura-h/>

保護者の方へ
 メールメイトにご加入ください。



母校

長崎県立大村高等学校
 校長 原 昌 紀

かつて佐世保市内の高校に勤務していた頃、ALTのN先生と出会いました。哲学者のような風貌を持つN先生でしたが、指導力があり、人間性も素晴らしい、生徒からの人気も絶大でした。3年間の任期を終えたN先生が、退任式の挨拶の中で全校生徒に対し、次のように問いかけられました。

「佐世保M高校はどこにありますか。佐世保市〇〇町××番地（学校の住所）にあるのですか」と。そしてN先生はこう続けられました。「みなさんが卒業して、母校を訪れたとき、『あなたのM高は…』そこにはありません。きっとそれは、あなたの心にあるのです。だから、あなたは今、この日常を丁寧に精一杯生きるべきだと思います。」
 示唆に富む、レベルの高い退任挨拶でした。一人一人が自覚して、一日一日を充実させる所からすべては始まるという主旨のお話に、当時の全校生徒が耳を傾けて聞き入っ

ていたことが印象深く思い出されます。

「母校」という言葉は、英語にはぴたりとくる訳語がなく、単純に「出身校」などと同一視されるそうです。「母国（mother country）」や「母語（mother tongue）」など、「母なる～」という共通の感覚は国や言語レベルでは見受けられるが、学校に対しては、そのような感覚が薄いのかもしれません。N先生は、挨拶の中で、あえて日本語で「母校」という言葉を使われました。初めてきた日本の高校で3年間を過ごされたN先生には、生徒が卒業した学校を単なる「出身校」でなく、「母校」として感じ取っておられたのだと思います。

大村高校は、たとえ卒業して直接の縁は切れたとしても、目に見えない紐帯で延々とつながっており、それがいわゆる伝統や歴史といわれるものだと思います。そして、大村高校は現在の生徒や職員のみならず、2万8千余名に及ぶ卒業生と、永遠に続くであろう未来の生徒たちが所有者であり、それぞれの心の中に厳然として存在するのです。そのような大村高校を母校にもつ皆さんが日々充実した高校生活を送ってくれることを願っています。

卒業生表彰

優良生徒表彰

- 県優良児童生徒表彰 3年7組 永尾 真臣
- 県高体連卒業生顕彰 3年6組 坪森 省吾
- 県高文連卒業生顕彰 3年6組 尾崎 美雨
- 産業教育関係学校優勝卒業生表彰
 - 3年8組 藤原聖皇子
- 全国家庭クラブ委員会表彰 3年8組 山口愛寿菜
- 県高体連表彰
 - 一般(団体)表彰 清艇部男子
 - 生徒表彰 3年5組 保利 瞬汰(水泳部)
 - 3年6組 坪森 省吾(港艇部)
- 県高文連生徒表彰 3年3組 黒川 銀杏(放送部)
- 3年6組 尾崎 美雨(放送部)

生徒会活動功労賞表彰

- ソフトテニス部(5名)
 - 3年6組 石原スリナ
 - 3年6組 高梨穂乃香
 - 3年8組 坂本あかり
 - 3年8組 田崎 結子
 - 3年8組 松藤あずさ
- 清艇部(7名)
 - 男子
 - 3年6組 坪森 省吾
 - 3年5組 中野 想介
 - 3年3組 松尾 匠馬
 - 女子
 - 3年8組 尾上 寧歌
 - 3年8組 山口 朝葉
 - 3年5組 大串 蒼奈
 - 3年8組 田中実乃乃
- 水泳部(1名)
 - 3年5組 保利 瞬汰
- 放送部(3名)
 - 3年6組 尾崎 美雨
 - 3年3組 黒川 銀杏
 - 3年5組 朝長 花咲
- 文芸部(1名)
 - 3年8組 北森 詩織
- 生徒会(5名)
 - 3年7組 永尾 真臣
 - 3年6組 尾崎 美雨
 - 3年1組 高月 光
 - 3年2組 柳田 里音
 - 3年3組 百田 晴生

部活動結果

()は出身中学校

ソフトテニス

- 第52回ハイスchool・ジャパンカップソフトテニス2023
シングルの部 長崎県代表選考大会
- 第3位 村川 梨花(北諫早)

女子テニス

- 第11回長崎県高等学校冬季テニス選手権シングルス
- 第5位 宮田 更子(大村)

ラグビー

- 令和4年度長崎県高等学校新人体育大会
ラグビーフットボール競技(10人制)
- 第3位
(3月 第24回九州高等学校10人制大会 出場権獲得)

放送部

- 第6回全九州高等学校総合文化祭
第44回九州高校放送コンテスト佐賀大会
- アナウンス部門 優良賞 中尾 凜(玖島)

文芸部

- 第6回全九州高等学校総合文化祭佐賀大会
文芸部誌部門 二席 長崎県立大村高等学校

美術部

- 第6回全九州高等学校総合文化祭佐賀大会
美術・工芸部門 九州高等学校文化連盟賞
糸田 真唯(大村)

写真部

- 第6回全九州高等学校総合文化祭佐賀大会
写真部門 九州高文連賞 高尾 麻紀(北諫早)

吹奏楽部

- 第48回九州アンサンブルコンテスト
銀賞

弁論

- 福澤諭吉記念第61回全国高等学校弁論大会
優秀賞(大分県教育長賞) 全国3位
矢部小羽紅(玖島)

大学入学共通テスト壮行式・見送り

1月14日(土)・15日(日)の大学入学共通テストに向け、13日(金)に壮行式が開催されました。校長先生や進路指導主事、学年主任から激励の言葉が送られ、1、2年生からも応援メッセージと共に気持ちのこもった千羽鶴が送られました。また、受験生を代表して、3年7組の田代隼士君が力強い決意表明をしてくれました。

新型コロナウイルス感染拡大の観点から、試験当日の後輩による見送りは中止になりましたが、3年生はこれまで培った力を発揮できるよう、緊張感をもって出発しました。



学びの本質 = 「探究心」



ふみだせ！正解のない世界へ はばたけ未来へ！！

大村高校「文理探究科」のページはこちらから▶



修学旅行

12/6(水)～9(金)



令和4年12月6日(水)～9日(金)の3泊4日の旅程で、関東方面の修学旅行に行ってきました。

クラス別研修では数理探究科はつくばサイエンスセミナー、家政科は横浜中華街で実習を行うなど、科の特色を活かした研修を行うことができました。また、普通科理系の3組は東京都立大研修を行い「課題研究と大学のつながり」などの講話をしていただきました。

おもてなしセミナー・ディズニーランド研修では、おもてなしセミナーにおいてチャップスファミリーの高級様より「利他の意識の重要性」の講演をしていただき、その後ディズニーランド研修を行うことで、他者に配慮することの大切さを学ぶことができました。

また、個別自主研修やスカイツリーなどの東京都内研修も行いました。旅行期間中は、天候にも恵まれ、仲間とも協力し合いながら過ごし、みんなの笑顔が溢れていました。今後の高校生活につながる修学旅行になりました。

家政科

12/12(月)

1年 染色実習

12/14(水)

ハンカチに積み木や輪ゴムなどを縛り、藍染めをしました。「広がるまでどんな形になるかわからないので楽しめました」「思った以上の模様ができた」などそれぞれ世界で一つのハンカチができあがっていました。



2年 「絵本の読み聞かせ講習会」

絵本の読み聞かせのコツを学んで、自分たちで絵本を選び、みんなに読み聞かせをしました。実際にやってみるとなかなか難しかったですが、更に絵本の魅力を感じることができました。



3年 デコレーションケーキ講習会

ケーキ作りで大切な生クリームのナッペの仕方を教えていただきました。「ケーキ作りが好きで学んだことをクリスマスケーキに活かしていきたい」という感想でした。

12/20(水)



3年 大村小学校授業支援

大村小学校5年生のエプロン製作のお手伝いをしました。「人に教えるのは難しかったが、完成して嬉しかった。」や「もっと交流したい」などの感想がありました。

12/1・8・15(木)



2年 「テーブルマナー講習会」

1/18(水)

洋食のコース料理食べながらテーブルマナーを学びました。「食物調理1級検定の参考になりました。」「味や調理法、盛り付けなど工夫された料理を食べることができて、勉強になった。」などの感想がありました。



マラソン大会



1月26日(木)

1月26日(木)にマラソン大会が行われ、育友会から差し入れをいただきました。コロナ禍のため、恒例の豚汁の炊き出しは今年もできませんでしたが、生徒全員に豚まん・スポーツドリンク・チョコレート菓子が配付され、厳寒の中でのマラソンを終えた生徒たちの体をあたためてくれました。育友会の皆様、あたたかい心遣い、ありがとうございました。



SSH活動報告

佐賀大学海洋エネルギー研究所研修 1年生数理探究科

12月7日(水)、1年生数理探究科を対象に、訪問研修を行いました。海洋エネルギーとは、海に蓄えられている豊富なエネルギー(波力・潮流など)のことで、近年注目されています。午前中は講義と施設見学、午後は計測実習に取り組みました。講義では、世界のエネルギー問題や海洋温度差(海の表層と深層の温度差を利用)発電などについて学びました。



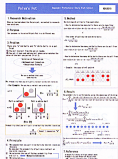
未来デザインイノベーションフェア 2年生参加希望者

12月18日(日)、希望者を対象に、長崎西高校を訪問しました。未来デザインイノベーションフェアとは、県内SSH校を中心に、日頃の課題探究活動の成果を発表する場で、年に1回開催されているものです。当日は、積雪の中の移動で大変でしたが、大学の先生からもアドバイスをいただくことができ、充実した時間を過ごすことができました。



2022年度WWL全国高校生フォーラム 2年数理探究科

12月18日(日)、数理探究科2年 西川真叶さん、中島誠拓さん、中村友哉さんの3名がオンラインで参加しました。発表題目は「ボリアの壺」で、これまで知られている解法とは別の解法を検討した、数学分野の研究成果を発表しました。海外の高校生も参加しているため、使用言語は原則、英語で行われたので、英語の実力が飛躍的に向上し、全国の高校生からも刺激を得ることができ、有意義な機会になりました。



$$a + b = a + b$$

$$a + b = a + b$$

$$a + b = a + b$$